PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

2001-085796

(43) Date of publication of application: 30.03.2001

(51)Int.CI.

H01S 5/343 G11B 7/125

(21)Application number: 2000-205787

(71)Applicant: SHARP CORP

(22)Date of filing:

06.07.2000

(72)Inventor: ITO SHIGETOSHI

YAMAZAKI YUKIO

TANETANI MOTOTAKA

(30)Priority

Priority number: 11195390

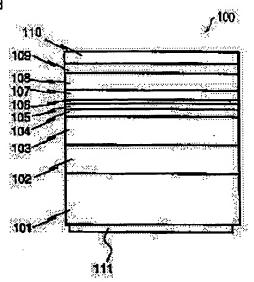
Priority date: 09.07.1999

Priority country: JP

(54) SEMICONDUCTOR LASER ELEMENT AND OPTICAL INFORMATION REPRODUCING DEVICE (57) Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To suppress the ripple of a far field pattern of a semiconductor laser, by so setting the compositions and the film thicknesses of its upper and lower guiding layers that the ripple of its far field pattern in the vertical direction to the surface of its laminated layer is suppressed.

SOLUTION: In a semiconductor laser element 100, the compositions and the film thicknesses of its n-Iny1Ga1-y1N lower guiding layer 104 (film thickness d1 μm) and its p-Iny2Ga1-y2N upper guiding layer 107 (film thickness d2 μm) are so set that the condition of neq≥nGaN is satisfied between an equivalent refractive index neq of its oscillation mode and a refractive index nGaN of its GaN layer 101. The case satisfying this condition exists about within the scope of 0.06≥d1+d2, 0.01 ≤y1, and 0.01≤y2. In the semiconductor laser element 100 existent within the scope satisfying this condition, there can be obtained always a single-humped far field pattern whose ripple is suppressed to the extent of no problem occurring.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of

rejection]
[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]
[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11)特許出願公開番号 特開2001-85796 (P2001-85796A)

(43)公開日 平成13年3月30日(2001.3.30)

(51) Int.Cl.7		識別記号	FΙ		テーマコート*(参考)
H01S	5/343		H01S	5/343	
G11B	7/125		G11B	7/125	Α

審査請求 未請求 請求項の数15 OL (全 19 頁)

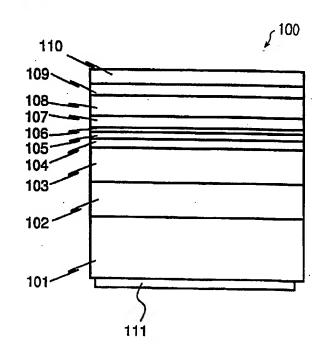
(21)出廢番号	特願2000-205787(P2000-205787)	(71)出願人	000005049
(22)出顧日	平成12年7月6日(2000.7.6)		シャープ株式会社 大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号
		(72)発明者	伊藤 茂稔
(31)優先権主張番号	特顧平11-195390		大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
(32)優先日	平成11年7月9日(1999.7.9)		ャープ株式会社内
(33)優先権主張国	日本 (JP)	(72)発明者	山崎 幸生
			大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
			ャープ株式会社内
		(72)発明者	種谷 元隆
			大阪府大阪市阿倍野区長池町22番22号 シ
			ャープ株式会社内
		(74)代理人	100078282
			弁理士 山本 秀策

(54) 【発明の名称】 半導体レーザ素子および光学式情報再生装置

(57)【要約】

【課題】 リップルを抑制したレーザを歩留まりよく生成する。

【解決手段】 GaN層と、Al_{x1}Ga_{1-x1}N (0.0 5 ≦ x 1 ≦ 0. 2) 下部クラッド層と、I n y1 G a 1-y1 N (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層 (膜厚 d 1 [μm]) ξ , Al_{al} I n_{bl}G a _{1-a1-b1}N_{1-e1-f1}P_{e1}A s f1 $(0 \le a \ 1, 0 \le b \ 1, a \ 1 + b \ 1 \le 1, 0 \le e \ 1,$ 0 ≦ f 1、e 1 + f 1 < 0. 5) 井戸層とA l a2 I n b2 $G = 1 - a - b + 2N_{1-e} - f + 2P_{e} - A + f + 2$ $0 \le a + 2$ $0 \le b$ 2, a 2 + b 2 \leq 1, $0 \leq$ e 2, $0 \leq$ f 2, e 2 + f 2 < 0.5) 障壁層との交互多層構造からなる活性層(膜 厚Wa [μm]) と、I $n_{y2}Ga_{1-y2}N$ (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層(膜厚d 2 [μm]) と、A 1 x2G a 1-x2N (0.05≦x2≦0.2) 上部クラッド層と、 をこの順に備えた半導体レーザ素子は、積層面に垂直方 向のファーフィールドパターンにおけるリップルが抑制 されるように、下部ガイド層および上部ガイド層の膜厚 と組成を設定する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 GaN層と、

A l _{xl}G a _{l-xl}N (0. 0 5 ≦ x 1 ≦ 0. 2)下部クラッド層と、

I n_{yl}G a_{l-yl}N (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層(膜厚d 1 [μm]) と、

A l_{al} I n_{bl} G $a_{1-al-bl}$ N $_{1-el-fl}$ P $_{el}$ A s_{fl} ($0 \le a_{1}$ $0 \le b_{1}$ $0 \le b_{1}$ $0 \le c_{1}$ $0 \le c$

5) 障壁層との父互多層博造からなる活性層(映序 w a [μm])と、

 $I n_{y2}G a_{1-y2}N$ (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層(膜厚d 2 $[\mu m]$) と、

 $A l_{x2}G a_{1-x2}N$ (0.05 \leq x 2 \leq 0.2) 上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レーザ素子であって、

積層面に垂直方向のファーフィールドパターンにおける リップルが抑制されるように、該下部ガイド層および該 20 上部ガイド層の膜厚と組成を設定してなることを特徴と する半導体レーザ素子。

【請求項2】 GaN層と、

 $Al_{x1}Ga_{1-x1}N$ (0. 05 \leq x 1 \leq 0. 2) 下部クラッド層と、

 $I n_{yl}G a_{1-yl}N$ (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層(膜厚 d 1 $[\mu m]$)と、

 $A l_{al} I n_{bl} G a_{1-al-bl} N_{1-el-fl} P_{el} A s_{fl} (0 \le a_{1}, 0 \le b_{1}, a_{1} + b_{1} \le 1, 0 \le e_{1}, 0 \le f_{1}, e_{1} + f_{1} < 0.5$) 井戸層と $A l_{a2} I n_{b2} G a_{1-a2-b2} N_{1-e2-f2} P_{e2} A s_{f2} (0 \le a_{2}, 0 \le b_{2}, a_{2} + b_{2} \le 1, 0 \le e_{2}, 0 \le f_{2}, e_{2} + f_{2} < 0.5$)障壁層との交互多層構造からなる活性層(膜厚W $a [\mu m]$)と、

In_{y2}Ga_{1-y2}N(0 < y 2 < 1)上部ガイド層(膜厚 d 2 [μm])と、、。。

 $A l_{x2} G a_{1-x2} N$ (0. $0.5 \le x.2 \le 0.2$) 上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レーザ素子であって、

該半導体レーザ素子の発振光の導液モード等価屈折率 neqと、該 GaN層の屈折率 nGaNとの間に、neq≥ nGaNの関係が成立するように、該下部ガイド層および該上部ガイド層の膜厚と組成を設定してなることを特徴とする半導体レーザ素子。

【請求項3】 GaN層と、

Al_{x1}Ga_{1-x1}N (0.05≦x1≦0.2)下部クラッド届と、

 $I n_{y1}G a_{1-y1}N$ (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層(膜厚 d 1 $[\mu m]$) と、

 $A I_{al} I n_{bl} G a_{1-a1-b1} N_{1-e1-f1} P_{el} A s_{fl} (0 \le a)$

2

1、0≦b1、a1+b1≦1、0≦e1、0≦f1、e1+f1<0.5)井戸層とAla2Inb2Gal-a2-b2N_{1-e2-f2}P_{e2}As_{f2}(0≦a2、0≦b2、a2+b2≦1、0≦e2、0≦f2、e2+f2<0.5)障壁層との交互多層構造からなる活性層(膜厚Wa[μm])と、

 $I n_{y2}G a_{1-y2}N$ (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層(膜厚d 2 $[\mu m]$) と、

A 1 x2G a 1-x2N (0.05≤x2≤0.2) 上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レーザ素子であって

該下部ガイド層および該上部ガイド層の膜厚と組成を、
0.06≦d1+d2≦0.1かつ0.06≦y1、
0.06≦y2、もしくは、0.1<d1+d2≦0.
15かつ0.04≦y1、0.04≦y2、もしくは、
0.15<d1+d2≦0.2かつ0.03≦y1、
0.03≦y2、もしくは、0.2<d1+d2≦0.
3かつ0.015≦y1、0.015≦y2、もしくは、0.3<d1+d2かつ0.015≤y2、もしくは、0.3<d1+d2かつ0.01≤y1、0.01
≦y2、のいずれかの範囲に設定してなることを特徴と
する半導体レーザ素子。

【請求項4】 GaN層と、

Al_{x1}Ga_{1-x1}N (0.05≦x1≦0.2)下部クラッド層と、

 $I n_{y1}Ga_{1-y1}N$ (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層(膜厚 d 1 $[\mu m]$) と、

A l al I n bl G a l-al-bl N l-el-fl Pel A s fl (0 ≤ a 1、0 ≤ b 1、a 1 + b 1 ≤ 1、0 ≤ e 1、0 ≤ f 1、e 1 + f 1 < 0.5) 井戸層とA l a2 I n b2G a

1-a2-b2N l-e2-f2Pel A s f2 (0 ≤ a 2、0 ≤ b 2、a 2 + b 2 ≤ 1、0 ≤ e 2、0 ≤ f 2、e 2 + f 2 < 0.5) 障壁層との交互多層構造からなる活性層(膜厚Wa [μm])と、

I n_{y2}G a_{1-y2}N (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層(膜厚d 2 [μm]) と、

 $Al_{x2}Ga_{1-x2}N$ (0. $0.5 \le x.2 \le 0.2$) 上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レーザ素子であって、

該下部ガイド層および該上部ガイド層の膜厚と組成を、 $y \ge 0$. 003/d-0. 003+ (0. 007-0. 22×Wa)+ (-0. 010+0. 10×x) [ただし、

d = (d 1 + d 2) / 2.

 $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2)$.

x = (x 1 + x 2) / 2

の範囲に設定してなることを特徴とする半導体レーザ素 子。

【請求項5】 情報記録面を有する光ディスクに照射されたレーザ光の反射光を光電変換することにより、該光ディスクに記録された記録情報を再生する光学式情報再

(3)

生装置であって、請求項1、2、3、4のいずれかに記 載の半導体レーザ素子を光源として用いることを特徴と する光学式情報再生装置。

【請求項6】 GaN層と、

A l x1G a l-x1N (0. 05≦x1≦0. 2) 下部クラ ッド層と、

In_{v1}Ga_{1-v1}N (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層と、 A l $_{a1}$ I $_{b1}G$ a $_{l-al-bl}\,N_{l-el-fl}\,P_{el}\,A$ s $_{fl}$ (0 \leq a $1, 0 \le b 1, a 1 + b 1 \le 1, 0 \le e 1, 0 \le f 1,$ e 1 + f 1 < 0. 5) 井戸層とA la2 I nb2 G a $1-a2-b2N_{1-e2-f2}P_{e2}A s_{f2} (0 \le a 2, 0 \le b 2, a)$ $2 + b \ 2 \le 1$, $0 \le e \ 2$, $0 \le f \ 2$, $e \ 2 + f \ 2 < 0$. 5) 障壁層との交互多層構造からなる活性層と、 $I n_{v2}G a_{1-v2}N$ (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層と、 $Al_{x2}Ga_{1-x2}N$ (0. 05 \leq x 2 \leq 0. 2) 上部クラ ッド層と、

を備えた半導体レーザ素子であって、

該下部ガイド層の膜厚d1μm、該下部ガイド層のIn 組成y1、該上部ガイド層の膜厚d2μm、および、該 上部ガイド層のIn組成y2が

0. $0.6 \le d.1 + d.2$

0. $0.1 \le y.1$, 0. $0.1 \le y.2$ の関係を満たす、半導体レーザ素子。

【請求項7】 前記下部ガイド層の膜厚d1μmおよび 該下部ガイド層のIn組成y1が、y1≧0.003/ d1-0.003の関係を満たす、請求項6に記載の半 導体レーザ素子。

【請求項8】 前記下部ガイド層の膜厚d1μmおよび 該下部ガイド層のIn組成y1が、y1≧0.003/ d 1+0.002の関係を満たす、請求項7に記載の半 30 との関係を満たす、請求項13に記載の半導体レーザ素 導体レーザ素子。

【請求項9】 前記上部ガイド層の膜厚d2μmおよ該 上部ガイド層のIn組成y2が、y2≧0.003/d 2-0.003の関係を満たす、請求項6に記載の半導 体レーザ案子。

【請求項10】 前記上部ガイド層の膜厚d2 μ mおよ び該上部ガイド層のIn組成y2が、y2≧0.003 / d 2 + 0. 002の関係を満たす、請求項9に記載の 半導体レーザ素子。

【請求項11】 前記下部ガイド層の In組成 y 1、前 40 【0001】 記下部ガイド層の厚さd1µm、前記上部ガイド層のI n組成 y 2、前記上部ガイド層の厚さ d 2 μ mおよび前 記活性層の厚さWaµmが、

 $y \ge 0.003/d-0.003+(0.007-0.$ 22×Wa)

 $2 \cdot (d + d \cdot 2) / 2$

 $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2)$ の関係を満たす請求項6に記載の半導体レーザ素子。

【請求項12】 前記下部ガイド層のIn組成y1、前

n組成y2、前記上部ガイド層の厚さd2μmおよび前 記活性層の厚さWaμmが、

 $y \ge 0$. 003/d+0. 002+ (0. 007-0. 22×Wa)

 $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2)$

の関係を満たす請求項11に記載の半導体レーザ素子。

【請求項13】 前記下部ガイド層のIn組成y1、前 記下部ガイド層の厚さd1、前記下部クラッド層のA1 10 組成 x 1、前記上部ガイド層の I n 組成 y 2、前記上部 ガイド層の厚さd2および前記上部クラッド層のA1組 成 x 2 が、

 $y \ge 0.003/d-0.003+(-0.010+$ $0.10 \times x$

zzv, d = (d1+d2)/2,

 $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2)$ x = (x 1 + x 2) / 2

との関係を満たす、請求項6に記載の半導体レーザ素

【請求項14】 前記下部ガイド層のIn組成y1、前 記下部ガイド層の厚さ d 1、前記下部クラッド層のA1 組成x1、前記上部ガイド層のIn組成y2、前記上部 ガイド層の厚さ d 2 および前記上部クラッド層の A 1 組 成x2が

 $y \ge 0$. 003/d+0. 002+(-0.010+ $0.10 \times x$

ccc, d = (d1+d2)/2,

 $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2)$ x = (x 1 + x 2) / 2

子。

【請求項15】 請求項6に記載の半導体レーザ素子 と、

光検出器とを備え、

該半導体レーザ素子から出射されたレーザ光を光ディス クに照射し、該光ディスクからの反射光に基づいて、該 光ディスクに記録された情報を再生する光学式情報再生 装置。

【発明の詳細な説明】

【発明の属する技術分野】本発明は、窒化ガリウム系半 導体を用いた半導体レーザ素子およびそれを用いた光学 式情報再生装置に関し、特に、FFP (Far Fie ld Pattern)が良好な半導体レーザ装置に関 連する。

[0002]

【従来の技術】GaN、InN、AINおよびそれらの 混晶半導体に代表される窒化物系半導体材料により、青 色から紫外領域で発光する半導体レーザ素子が試作され 記下部ガイド層の厚さd1μm、前記上部ガイド層のI 50 ている。図16は、ジャパニーズ=ジャーナル=オブ=

5

アプライド=フィジックス38号L184~L186ペ ージ (Masaru KURAMOTO et a 1.: Jpn. J. Appl. Phys. vo 38 (1999) pp. L184-L186) で報告された、波長405mmで発振する窒化物半導体 レーザ素子1600を示す図である。半導体レーザ素子 1600は、n-GaN1601層 (膜厚100μm) 上に、n-Al0.07Ga0.93N下部クラッド層1602 (膜厚 1 μ m) 、 n - G a N 下部ガイド層 1 6 0 3 (膜 厚0. 1μm)、In_{0.2}Ga_{0.8}N (膜厚3nm) / I n 0.05G a 0.95N (膜厚 5 n m) - 3 重量子井戸活性層 1604、p-Al_{0.19}Ga_{0.81}Nキャップ層1605 (膜厚 2 0 n m) 、 p - G a N上部ガイド層 1 6 0 6 (膜厚 0. 1 μ m) 、 p - A l 0.07 G a 0.93 N上部クラ ッド層1607(膜厚0.5μm)、p-GaNコンタ クト層1608(膜厚0.05μm)が順次積層形成さ れており、また、これらの上下にはそれぞれ電極160 9、1610が形成されている。レーザ素子1600で は、活性層1604およびガイド層1603、1606 がクラッド層1602、1607に挟まれた導波構造を 20 有しており、活性層で発光した光は、この導波構造内に 閉じ込められて、レーザ発振動作を生じる。

[0003]

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上記従 来の半導体レーザ素子1600では、以下に示すような 問題が生じる。本発明者らにより上記構造の半導体レー ザ素子1600を作製したところ、図17に示すような FFP (ファーフィールドパターン) が得られた。図1 7の横軸は角度であり、活性層1604に垂直でその長 手方向に平行な面内におけるビームの角度を示し、図1 30 7の縦軸は、ビーム強度の相対値を示す。なお、本明細 書中では、半導体レーザ積層構造に垂直な方向のFFP を問題にしており、これを、単にFFPと記載してい る。本明細書において、FFPとは、レーザ光の開口部 から離れた場所で求めた光ビーム強度の角度分布のこと である。図17のグラフにおいて、FFP1701、1 702は、上記構造の半導体レーザ索子1600の結果 であり、+20°付近にサブピークが生じているほか、 多数のリップルが見られる。図17に示されるようにリ ップルは、案子によってはFFP1701のように極め て抑制されているものもあるが、FFP1702のよう に、顕著なものも見られる。また、FFP1703は、 上記半導体レーザ素子1600の構造において、n-A 10.07G a 0.93N下部クラッド層1602の膜厚を上記 1μmから0.7μmへと小さくした場合のFFPであ り、±20°付近のサブピークが非常に大きくなってい

【0004】図17にFFPとして図示しないが、基板 として用いられているGaN層1601の結晶品質を低 下させたり、不純物量を大きくしたりすると20°付近 50

のサブピーク等のリップルは減少することが本発明者らの研究により判明した。逆に、寿命特性の良好な半導体レーザ素子を得るために、結晶欠陥の少ない高品質の結晶をGaN層1601に用いたり、GaN層1601の不純物濃度を減少させると、 $\pm20^\circ$ 付近のリップルが増大する。図17におけるFFP1701とFFP1702のリップルの違いは、これらの状況が素子により微妙に異なるために生じているものと考えられる。また、さらに、一般に、下部A1GaNクラッド層1602の下にあるGaN層1601の膜厚が大きいほど、リップルは顕著になることも実験的に判明した。よって、通常基板の厚さは 50μ m以上と大きいため、基板にGaNを使用した場合には、サファイアを基板として使用した場合にくらべて、このようなリップルを抑制することが極めて困難である。

【0005】このように、従来の技術によれば、FFPにリップルが生じてしまい、最悪の場合、FFP強度は単峰のパターンが得られないことがある。これは、上述のように、(1)下部クラッド層1602の層厚を低てさる、(2)GaN層1601の不純物量を増大させる、のいずれかにより抑制される。しかし、上記(1)としてGaN層1601上にA1GaN下部クラッド層1602を厚く形成すると、クラックが発生するおそれがある。また、上記(2)としてGaN層1601の結晶品質を低下させる、あるいは上記(3)として不純物量を増大させると、形成される半導体レーザ素子1600の寿命特性が悪化するおそれがある。したがって、上記(1)~(3)の手法には限界があり、歩留まりよく、十分に抑制することが困難であった。

【0006】FFPにリップルが生じると、光ピックアップ等への応用時に、集光が不十分になったり、迷光の発生の原因になるので、好ましくない。本発明は、上記問題を解消し、光ピックアップ等へ応用して最適な窒化物半導体レーザ素子を提供し、また、集光特性の優れた光学式情報再生装置を実現することを目的とする。

[0007]

 順に備えた半導体レーザ素子であって、積層面に垂直方 向のファーフィールドパターンにおけるリップルが抑制 されるように、該下部ガイド層および該上部ガイド層の 膜厚と組成を設定してなることを特徴とする。

【0008】また、本発明の半導体レーザ素子は、Ga N層と、Al_{x1}Ga_{1-x1}N(0.05 \le x1 \le 0.2) 下部クラッド層と、 I n_{v1}G a 1-v1N (0 < y 1 < 1) 下部ガイド層(膜厚d1 [µm])と、 Alal Inbl $G a_{1-a} - b_1 N_{1-e} - f_1 P_{e} A s_{f_1} (0 \le a_1, 0 \le b)$ 1, $a 1 + b 1 \le 1$, $0 \le e 1$, $0 \le f 1$, e 1 + f 1< 0. 5) 井戸層とAla2Inb2Gal-a2-b2Nl-e2-f2 $P_{e2}A s_{f2} (0 \le a \ 2, 0 \le b \ 2, a \ 2 + b \ 2 \le 1, 0$ ≦ e 2 、 0 ≦ f 2 、 e 2 + f 2 < 0 . 5) 障壁層との交 互多層構造からなる活性層(膜厚W a [μm]) と、I n_{v2}G a_{1-v2}N (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層 (膜厚 d 2 [μ m]) ξ , Al_{x2}G a_{1-x2}N (0. 05 \leq x 2 \leq 0.2)上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レ ーザ素子であって、該半導体レーザ素子の発振光の導波 モード等価屈折率 negと、該GaN層の屈折率 nGaNと の間に、neg≥nGaNの関係が成立するように、該下部 ガイド層および該上部ガイド層の膜厚と組成を設定して なることを特徴とする。

【0009】以上の構成により、従来の技術の半導体レ ーザ素子の課題が解決される。

【0010】さらに、本発明の半導体レーザ素子は、G a N層と、A l_{x1} G a_{1-x1} N (0.05 $\leq x$ 1 \leq 0. 2) 下部クラッド層と、In_{v1}Ga_{1-v1}N (0<y1< 1) 下部ガイド層(膜厚d 1 [μm]) と、 Alal I $n_{b1}G a_{1-a1-b1}N_{1-e1-f1}P_{e1}A s_{f1} (0 \le a_{1}, 0 \le a_{1})$ 1 < 0. 5)井戸層とAla2Inb2Gal-a2-b2N $1-e2-f2P_{e2}A s_{f2}$ ($0 \le a 2$, $0 \le b 2$, a 2+b 2≦1、0≦e2、0≦f2、e2+f2<0.5) 障壁 層との交互多層構造からなる活性層(膜厚Wa [μ m]) と、In_{y2}Ga_{1-y2}N (0 < y 2 < 1) 上部ガイ ド層(膜厚 d 2 [μm]) と、A l x2G a 1-x2N (0. 05≦x2≦0.2)上部クラッド層と、をこの順に備 えた半導体レーザ素子であって、該下部ガイド層および 該上部ガイド層の膜厚と組成を、0.06≦d1+d2 ≤ 0.1 1 1 2 2 3 4 4 4 2は、0. $1 < d1 + d2 \le 0$. 15かつ0. $04 \le y$ 1、0. $0.4 \le y.2$ 、もしくは、0. 1.5 < d.1 + d.2≤ 0.2 2 2 0.03 2 2 3 4 2は、0.2<d1+d2≦0.3かつ0.015≦y 1、0.015 \leq y2、もしくは、0.3<d1+d2かつ0. 01≦y1、0. 01≦y2、のいずれかの範 囲に設定してなることを特徴とする。

【0011】さらに、本発明の半導体レーザ素子は、G a N層と、A $l_{x1}Ga_{1-x1}N$ (0.05 $\leq x$ 1 \leq 0. 2) 下部クラッド層と、InylGal-ylN(O<yl< 50

 下部ガイド層(膜厚d1 [μm])と、AlalIn blG $a_{1-a1-b1}N_{1-e1-f1}P_{e1}As_{f1} (0 \le a_1, 0 \le b_1)$ 1, $a 1 + b 1 \le 1$, $0 \le e 1$, $0 \le f 1$, e 1 + f 1< 0. 5) 井戸層とAla2Inb2Gal-a2-b2N1-e2-f2 $P_{e2}A s_{f2} (0 \le a 2, 0 \le b 2, a 2 + b 2 \le 1, 0$ ≦ e 2 、0 ≤ f 2 、 e 2 + f 2 < 0 . 5) 障壁層との交 互多層構造からなる活性層(膜厚Wα [μm])と、I n_{v2}G a_{1-v2}N (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層 (膜厚 d 2 [μ m]) ξ , Al $_{x2}$ Ga $_{1-x2}$ N (0. 05 \leq x2 \leq 0.2) 上部クラッド層と、をこの順に備えた半導体レ ーザ素子であって、該下部ガイド層および該上部ガイド 層の膜厚と組成を、y≥0.003/d-0.003+ $(0. 007-0. 22 \times Wa) + (-0. 010 +$ 0. $10 \times x$) [ttl, d = (d1 + d2) / 2, y $= (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + d 2) , x =$ (x1+x2)/2]の範囲に設定してなることを特徴 とする。

【0012】上記本発明の半導体レーザ素子において、 好ましくは、y1≦b1−0.08、y2≦b1−0. 20 08であり、さらに好ましくは、y1≦b1-0.1、 y 2 ≦ b 1 - 0. 1 の範囲に限定される。

【0013】また、上記本発明の半導体レーザ素子にお いて、好ましくは、y1≥0.01、y2≥0.01、 $y \le 0$. 16-0. 6×dであり、さらに好ましくは、 $y \ 1 \ge 0$. $0 \ 1$, $y \ 2 \ge 0$. $0 \ 1$, $y \le 0$. $1 \ 3 - 0$. 6×dである. 最も好ましい様態として、さらに、y1 ≧0.02、y2≧0.02、d≦0.12の範囲に限 定される。

【0014】なお、下部ガイド層とは、AlGaN下部 bl、al+bl≦l、0≦el、0≦fl、el+f 30 クラッド層と、活性層とに挟まれた、Alを構成元素と して含まない層のことであり、必ずしも一層の構成であ る必要はない。2、3、4、5層等の複数の組成の異な るInGaN薄膜あるいはGaN薄膜の積層構造やさら に多数の薄膜からなる超格子積層構造であってもよく、 この場合、各薄膜の膜厚で加重平均した組成を下部ガイ ド層のIn組成y1とする。また、上部ガイド層とは、 AlGaN上部クラッド層と、活性層とに挟まれた、A 1を構成元素として含まない層のことであり、必ずしも 一層の構成である必要はない。2、3、4、5層等の複 数の組成の異なるInGaN薄膜あるいはGaN薄膜の 積層構造やさらに多数の薄膜からなる超格子積層構造で あってもよく、この場合、各薄膜の膜厚で加重平均した 組成を上部ガイド層のIn組成y2とする。

> 【0015】本発明の光学式情報再生装置は、情報記録 面を有する光ディスクに照射されたレーザ光の反射光を 光電変換することにより、該光ディスクに記録された記 録情報を再生する光学式情報再生装置であって、前述の いずれかの本発明の半導体レーザ素子を光源として用い ることを特徴とし、これにより、従来の技術の問題点が 解決される。

【0016】さらに、本発明の半導体レーザ素子はGa N層と、 $A \mid_{x_1} G \mid_{a_1-x_1} N (0.05 \le x 1 \le 0.2)$ 下部クラッド層と、InvlGal-vlN(0<yl<1) 下部ガイド層と、AlalInblGal-al-blNl-el-flP $elAs_{fl} (0 \le a 1, 0 \le b 1, a 1 + b 1 \le 1, 0 \le a 1)$ e1、0≤f1、e1+f1<0.5) 井戸層とAla2 I $n_{\,b2}G$ a $_{1-a2-b2}N_{\,1-e2-f2}P_{\,e2}A$ s $_{f2}$ ($0 \leq$ a $\, 2$, $\, 0$ \leq b 2 \ a 2 + b 2 \leq 1 \ 0 \leq e 2 \ 0 \leq f 2 \ e 2 + f 2<0.5) 障壁層との交互多層構造からなる活性層 と、In_{v2}G a _{1-v2}N (0 < y 2 < 1) 上部ガイド層 と、Al_{x2}Ga_{1-x2}N (0.05≦x2≦0.2)上部 クラッド層と、を備えた半導体レーザ素子であって、該 下部ガイド層の膜厚d1μm、該下部ガイド層のIn組 成y1、該上部ガイド層の膜厚d2μm、および、該上 部ガイド層のIn組成y2が0.06≦d1+d2、

0.01≦y1、0.01≦y2の関係を満たす。

【0017】前記下部ガイド層の膜厚d1μmおよび該 下部ガイド層のⅠn組成y1が、y1≧0.003/d 1-0.003の関係を満たしてもよい。

【0018】前記下部ガイド層の膜厚d1μmおよび該 20 下部ガイド層のⅠn組成y1が、y1≧0..003/d 1+0.002の関係を満たしてもよい。

【0019】前記上部ガイド層の膜厚d2μmおよ該上 部ガイド層の I n 組成 y 2 が、 y 2 ≧ 0. 0 0 3 / d 2 -0.003の関係を満たしてもよい。

【0020】前記上部ガイド層の膜厚d2μmおよび該 上部ガイド層のIn組成y2が、y2≧0.003/ d 2+0.002の関係を満たしてもよい。

【0021】前記下部ガイド層のIn組成y1、前記下 部ガイド層の厚さ d 1 μ m 、前記上部ガイド層の I n 組 30 成y2、前記上部ガイド層の厚さd2μmおよび前記活 性層の厚さWaμmが、y≥0.003/d-0.00 $3 + (0.007 - 0.22 \times Wa)$, $2.2 \times C$, d = 0.007 + 0. $(d 1+d 2) / 2, y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2)$ / (d1+d2)、の関係を満たしてもよい。

【0022】前記下部ガイド層のIn組成y1、前記下 部ガイド層の厚さd1μm、前記上部ガイド層のIn組*

$$(2\pi/\Lambda) = (2\pi/\lambda) \sin \theta$$

を満たす⊖の方向に、リップルが生じることになる。こ 強度が強い、もしくは、広い範囲にわたって存在するほ ど、リップルが顕著になることになる。

【0028】図16に示す従来の窒化物半導体レーザ素 子1600の構造において、スラブ導波路における導波※

E[x] ~ e x p [± j (2
$$\pi/\Lambda$$
) x] (2)
 $\Lambda = \lambda/(n_{GaN}^2 - n_{eq}^2)^{0.5}$ (3)

このΛにより生じるリップル角度は、上式 (1) より約 23°であり、図17におけるサブピーク位置とほぼー 致する。また、FFP1703のように下部クラッド厚 50 ガイド層1603、1606との距離が小さくなること

 $\sim 1 \mu \text{ m}$

10 *成y2、前記上部ガイド層の厚さd2μmおよび前記活

性層の厚さW a μ m が、 y ≧ 0 . 0 0 3 / d + 0 . 0 0 2 + (0. 007-0. 22×Wa)、ここで、d= $(d 1+d 2) / 2, y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2)$ / (d1+d2)、の関係を満たしてもよい。

【0023】前記下部ガイド層のIn組成y1、前記下 部ガイド層の厚さは1、前記下部クラッド層のAl組成 x1、前記上部ガイド層のIn組成y2、前記上部ガイ ド層の厚さd2および前記上部クラッド層のA1組成x 10 $2 \text{ is}, y \ge 0.003/d-0.003+(-0.01)$ $0+0.10\times x)$ 、 ここで、 d = (d1+d2) $2 \cdot y = (y \cdot 1 \times d \cdot 1 + y \cdot 2 \times d \cdot 2) / (d \cdot 1 + d)$ 2) x = (x 1 + x 2) / 2、との関係を満たしても

【0024】前記下部ガイド層のIn組成y1、前記下 部ガイド層の厚さd1、前記下部クラッド層のAl組成 x1、前記上部ガイド層のIn組成y2、前記上部ガイ ド層の厚さd2および前記上部クラッド層のA1組成x 2 $\text{ is} , y \ge 0.003 / d + 0.002 + (-0.01)$ $0+0. 10 \times x)$, zzv, d = (d1+d2) / $2 \cdot y = (y \cdot 1 \times d \cdot 1 + y \cdot 2 \times d \cdot 2) / (d \cdot 1 + d \cdot 1 + d$ 2) x = (x 1 + x 2) / 2、との関係を満たしても よい。

【0025】本発明の光学式情報再生装置は上記に記載 の半導体レーザ素子と、光検出器とを備え、該半導体レ ーザ素子から出射されたレーザ光を光ディスクに照射 し、該光ディスクからの反射光に基づいて、該光ディス クに記録された情報を再生する。

[0026]

【発明の実施の形態】始めに、本発明の原理について述

【0027】TEモードで発振する半導体レーザ素子に おいて、角度OにおけるFFP強度は、導波モードの垂 直方向xの電界分布E[x]の、係数を(2π/λ)s in O (λは発光波長)としたフーリエ変換であるか ら、電界分布に、周期↑の振動成分が強くあれば、

(1)

※理論からGaN層の屈折率n_{GaN}は2. 540、導波モ の振動成分を持つ電界の分布が大きい、すなわち、電界 40 ードの等価屈折率 negは、2.51と見積もられ、よっ て、ngaN>neqの関係があるから、GaN層中で電界 E [x] は周期 A で振動している。数式で示すと、以下 のようになる。

[0029]

(3)

層1602を薄くすると±20°付近のサブピーク強度 が増大するのは、GaN層1601と活性層1604・

11

により、GaN層1601への電界の分布が大きくな り、その結果、FFPが悪化するためと考えられる。さ らに、本発明者らの実験により、基板としてサファイア を使用し、GaN層1601の厚さを減らすと、平均的 にはFFPが改善されることが判明した。これは、Ga N層1601への電界の分布が減少した結果を示してい ると考えられる。また、さらに、GaN基板として用い られるGaN層1601の結晶品質を低下させたり、不 純物量を大きくしたりするとリップルが減少するとい う、本発明者らの検討結果は、これらの変化によりGa 10 N層1601の光吸収が大きくなって、結果として、導 波モードのGaN層における電界分布が小さくなり、F FPが改善されることを示しているものと考えられる。 以上の考察および検討事実から、特に±20°付近に顕 著に生じることの多いリップルの原因を、下部クラッド 層1602の外側に存在するGaN層1601における 電界の振動であると推測した。

【0030】 GaN B1601における電界の振動が原因で生じるFFPのリップルを根本的に生じなくさせるためには、上述の考察から、GaN B1601において 20電界が振動成分を持たないようにすればよく、これは、 (2) 式における exp 関数の引数を実数とすること、すなわち、 $nGaN \le neq$ とすればよい。この場合には、GaN B1601における電界 Ex がx 方向に減衰することになる。なお、ここでの議論では、GaN B1 よび実効屈折率の虚数成分は実数成分に比較して十分小さいので、無視している。neq の値をこのような条件を満たすように変更できるかどうか、本発明者らが種々検討した結果、ガイド層を特定の組成・膜厚の InyGa1 にっている。InyCa1 とすれば、達成できることを見い 30出した。

【0031】図1は、本発明の半導体レーザ素子100を示す模式図である。図1は、半導体レーザ素子100の導波路部分の共振器に沿った断面を示している。本半導体レーザ素子100は、n-GaN基板101(膜厚 $30\sim300\mu$ m)上に、その上に順次、n-GaN中間層102(膜厚 $0\sim30\mu$ m)、 $n-Al_{x1}Ga_{1-x1}N$ ($0.05 \le x 1 \le 0.2$)下部クラッド層103

(膜厚 $0.5 \mu m \sim 10 \mu m$) 、 $n - In_{y1}Ga_{1-y1}N*$

* (0 < y 1 < b 1) 下部ガイド層 1 0 4 (膜厚 d 1 [u m])、In_{b1}Ga_{1-b1}N (0 < b 1 < 1) 井戸層とI nb2Ga1-b2N (0≦b2<b1) 障壁層との交互多層 構造からなる活性層105(発光波長370~500m m、総膜厚5~60nm)、AlGaNキャップ層10 6 (膜厚0~20nm)、p-In_{v2}Ga_{1-v2}N (0< y 2 < b 1) 上部ガイド層 1 0 7 (膜厚 d 2 [μ m]), $p-A l_{x2}G a_{1-x2}N$ (0. $0.5 \le x.2 \le 0$. 2) 上部クラッド層108 (膜厚0. 4μm~10μ m)、p-GaNコンタクト層109の各窒化物系半導 体層が形成されている。さらに、p-GaNコンタクト 層109の上面には、金属電極 (例えば、Pd/Au、 Ni/Pd/Au、Pd/Pt/Au等) 110が形成 されており、また、n-GaN基板の裏面には金属電極 (例えば、Ti/Al、Zr/Al、Hf/Alなど) 111が形成されている。ここでは、n-GaN基板1 01とn-GaN中間層102を併せて、GaN層と呼 *پ*خ.

【0032】半導体レーザ素子100において、下部ガイド層104および上部ガイド層107の組成および、膜厚は、発振モードの n_{eq} が、GaN層の屈折率 n_{GaN} との間に、 $n_{eq} \ge n_{GaN}$ が成立するように設定されている。

【0033】等価屈折率 n_{eq} は、スラブ導波路における 通常の電界分布計算により求めることができる。例えば、ジャーナル・オブ・アプライド・フィジックス84号1196~1203ページ(M. J. Bergman n and H. C. Casey, Jr.: App l. Phys. vol. 84 (1998) pp. 1196-1203)を参照することができる。また、電界分布計算におけるパラメータである、発振波長 λ [nm]における各材料の屈折率 n_{eq} は、以下のように、求められる。発振波長 λ は300~800nmの範囲とすることができる。

【0034】まず、各材料のパラメータEg [eV] が 次式で与えられる。

【0035】 I n_s G a $_{1-s}$ N(0 \leq s \leq 1)に対しては、

```
Eg=Eg1 [s] = 3. 42 (1-s) + 2. 65s-3. 94s (1-s) (4) A l_t G a_{1-t} N \ (0 \le t \le 1) \ \text{に対しては、} \\ Eg=Eg2 [t] = 3. 42 (1-t) + 6. 2t-1. 057t (1-t) \\ (5) I n_s A l_t G a_{1-s-t} N \ (0 < s < 1 \ 0 < t < 1 \ 0 \le s + t \le 1) \ \text{に対しては、} \\ Eg= \{s \times Eg1 [s+t] + t \times Eg2 [s+t] \} / (s+t) \ (6) \\ \end{pmatrix} 上記 (4) \sim (6) により、屈折率n (p[\lambda]) は、p[\lambda] = 1/[1/\lambda-(Eg-3. 42)/1239. 852]
```

(8)

ここで、

 $q = p[\lambda] - 360$

8)

c 0 = 2.718

c1 = 9.976e - 3

c 2 = 3.005e-4

c3 = 4.584e - 6

c4 = 2.596e - 8

である。本発明において、n_{eq}はここに規定されたパラメータを用い、上述のスラブ導波路における電界分布計算により計算されるものである。

【0036】レーザ構造を構成する各層において、井戸 層よりもエネルギーギャップの小さい組成の半導体から なる層と金属からなる層を除いて、吸収係数は小さいと 20 実現できた。 して、無視してよい。また、基板である層101は、通 常膜厚50μm以上であり、LD導波路構造のコア部分 である下部ガイド層104から上部ガイド層107まで の膜厚(通常 O. 4 μ m以下)と比較してかなり大きい ので、基板の下面の導波モードに与える影響は小さいと して、無視してよい。すなわち、基板である層101の 厚みを無限大として電界分布計算をすればよい。以上の 手順により、本実施の形態におけるInGaN下部ガイ ド層104、InGaN上部ガイド層107の膜厚・組 成が n_{eq}≧ n_{GaN}となるように選定することができる。 【0037】以上の手順により、結果として、およそ、 0. $0.6 \le d.1 + d.2$, 0. $0.1 \le y.1$, 0. $0.1 \le y.1$ 2の範囲内に上記条件を満たす場合が存在することがわ かる。具体的には、0.06≦d1+d2≦0.1の場 合には、0.06≤y1、0.06≤y2、0.1<d 1+d2≦0.15の場合には、0.04≦y1、0. 04≦y2、0.15<d1+d2≦0.2の場合に t_{1} , 0. $0.3 \le y 1$, 0. $0.3 \le y 2$, 0. 2 < d.1 + 1d 2 ≦ 0. 3 の場合には、0. 0 1 5 ≦ y 1、0. 0 1 5 ≤ y 2、0.3 < d 1 + d 2 の場合には、0.01 ≤ 40 $y 1, 0. 01 \le y 2$ v 3.

【0038】ここで、下部ガイド届104とは、A1G a N下部クラッド居103と、活性層105とに挟まれた、A1を構成元素として含まない層を意味し、必ずしも一層の構成である必要はない。2、3、4、5層等の複数の組成の異なるInGaN薄膜あるいはGaN薄膜の積層構造、または、さらに多数の薄膜からなる超格子積層構造であってもよく、この場合、各薄膜の膜厚で加重平均した組成を下部ガイド層104のIn組成y1とすればよい。また、上部ガイド層107とは、A1Ga

N上部クラッド層103と、活性層105との間に挟まれた、A1を構成元素として含まない層を意味し、必ず10 しも一層の構成である必要はない。2、3、4、5層等の複数の組成の異なるInGaN薄膜あるいはGaN薄膜の積層構造、またはさらに多数の薄膜からなる超格子積層構造であってもよく、この場合、各薄膜の膜厚で加重平均した組成を上部ガイド層107のIn組成y2とすればよい。

【0039】本条件を満たす範囲で、半導体レーザ素子 100を作製したところ、単峰で、かつ、図17に現わ れていたリップルが問題にならない程度(10%以下) まで抑制されたFFPが常に得られ、良好な光学特性が 実現できた。

【0040】 [実施の形態1] 本実施の形態は、図1に 概略図を示す半導体レーザ素子100の各層の膜厚・組 成を以下のように形成した。n-GaN基板101(膜 厚100μm)、n-GaN中間層102(膜厚3μ m)、 $n-Al_{x1}Ga_{1-x1}N$ (x1=0.1) 下部クラ ッド層103 (膜厚0. 8μm) 、n-In_{v1}Ga_{1-v1} N (y 1 = 0. 035) 下部ガイド層104 (膜厚0. 1μm)、In_{b1}Ga_{1-b1}N (b1は約0.17)井戸 層 (膜厚2nm)、 $In_{b2}Ga_{1-b2}N$ (b2=0.030 5) 障壁層 (膜厚4 n m) との交互多層構造 (障壁層/ 井戸層/・・・/井戸層/障壁層) からなる5重量子井 戸活性層105(発光波長410mm、総膜厚34m m) 、A l zG a 1-zN (z = 0. 2)キャップ層 1 0 6 (膜厚 1 8 n m) 、 $p - I n_{y2}G a_{1-y2}N$ (y 2 = 0. 035) 上部ガイド層107 (膜厚0.1 μm)、p-A l x2G a 1-x2N (x 2 = 0. 1) 上部クラッド層 1 0 8(膜厚 0. 5 μ m)、 p − G a N コンタクト層 1 0 9 (膜厚0.1μm)。

【0041】本実施の形態の半導体レーザ案子100の 構成において、FFPを測定したところ、図2のように 単峰のプロファイルが得られ、リップルはほとんど見ら れず(3%以下)、良好な放射特性が得られることが判 明した。なお、室温における発振閾値は60mAであ り、80℃においても連続発振動作が確認できた。

【0042】比較例として、本実施の形態による半導体レーザ素子100のガイド層104、107のInGaNの代わりに、従来の半導体レーザ素子1600のようにGaNを用いた半導体レーザ素子を作製したところ、そのレーザ素子は、図17のFFP1702と同様の、リップルのあるFFP特性を有した。このように、本実

施の形態によれば、光学特性の優れた半導体レーザ素子 を得ることができた。

【0043】本実施の形態の半導体レーザ素子100の 発振モードの等価屈折率を上記手法により見積もったと ころ、n_{eq}=2.547であり、GaN層の屈折率n GaN=2.540よりも大きかった。これにより、n-GaN基板101、n-GaN中間層102、p-Ga Nコンタクト層109等での電界の振動成分が無くな り、よって、良好な放射特性が得られたものと考えられ る。

【0044】次に、本実施の形態の半導体レーザ素子1 00の構造から、In_{v1}Ga_{1-v1}N下部ガイド層104 および I. n v2G a 1-v2N上部ガイド層 1 0 7 の I n組成 y 1 および y 2 と、それらの 膜厚 d 1 [μm]、 d 2 [µm]を種々変更して、等価屈折率の値を計算した結 果を図3のグラフに示す。図3の黒丸は計算された点で あり、曲線はそれらをなめらかに結ぶ。ここでは、説明 を簡略化する目的で、ガイド層104、107のIn組 成および厚さをそれぞれ等しい、すなわちy1=y2, d 1 = d 2 となるように形成した。図 3 に示されるガイ 20 ド層厚は、各ガイド層104、107の厚さ(d1=d 2) である。図3に示されるように、ガイド層のIn組 成が0すなわち、ガイド層がGaNからなる場合には、 ガイド層厚を0.025~0.15μmと変えても、等 価屈折率の値はGaNの屈折率2.540を超えない。 ガイド層の I n 組成を 0 から 0.09へと変化させる、 あるいは、ガイド層厚を増加させるほど、一般に等価屈 折率は増大し、ガイド層厚が 0.15μmの場合には、 I n組成は約0.016以上、ガイド層厚が0.1μm の場合には、Іп組成は約0.028以上、ガイド層厚 30 が 0.05 μ m の場合には、I n 組成は約 0.05 7 以 上で等価屈折率の値はGaNの屈折率2.540を超え る。ガイド層厚が 0.025μmの場合、いずれの In 組成でも、等価屈折率の値がGaNの屈折率2.540 を超えない。上述のように、ここで、下部ガイド層10 4とは、A1GaN下部クラッド層103と、活性層1 05とに挟まれたA1を構成元素として含まない層を意 味し、必ずしも一層の構成である必要はない。2、3、 4、5層等の複数の組成の異なるInGaN薄膜あるい はGaN薄膜の積層構造やさらに多数の薄膜からなる超 40 格子積層構造であってもよく、この場合、各薄膜の膜厚 で加重平均した組成を下部ガイド層104のIn組成y 1とすればよい。このことは、実施の形態2ないし9に おいても同じように適用される。また、上部ガイド層1 07とは、AIGaN上部クラッド層108と、活性層 105とに挟まれた、Alを構成元素として含まない層 のことであり、必ずしも一層の構成である必要はない。 2、3、4、5層等の複数の組成の異なるInGaN薄 膜あるいはGaN薄膜の積層構造やさらに多数の薄膜か らなる超格子積層構造であってもよく、この場合、各薄 50 り、これが、悪影響を及ぼしているものと推察される。

16

膜の膜厚で加重平均した組成を上部ガイド層107のⅠ n組成y2とすればよい。このことは、実施の形態2な いし9においても同じように適用される。

【0045】ガイド層104、107の厚さおよびIn 組成が等しい(すなわち、d1=d2、y1=y2)場 合に、等価屈折率 neqとGaNの屈折率 nGaNとが等し くなる、ガイド層厚とガイドIn組成との値を黒丸で図 4に示し、曲線Aは黒丸をなめらかに結ぶ。図4は、横 軸にガイド層厚、縦軸にガイド層In組成を示す。曲線 10 Aは、y1=0.003/d1-0.003で近似でき る。曲線A上の領域(曲線Aを含む)、すなわち、近似 的に y 1 ≥ 0. 0 0 3 / d 1 - 0. 0 0 3 を満たす範囲 で、等価屈折率 negはGa Nの屈折率 nGaN以上(neg ≧ n GaN)になり、基板等のGaN層101、102に 起因するリップルが無く、良好な光学特性を得ることが できる。また、同様に、y2≧0.003/d2-0. 003を満たすことで、等価屈折率 negはGa Nの屈折 率ngaN以上(neg≧ngaN)になり、良好な光学特性を 得ることができる。

【0046】なお、図3および図4での計算結果は、簡 略化のために上下のInGaNガイド層104、107 の厚さおよび In組成を対称、すなわち、d1=d2、 y1=y2とした。しかし、これは非対称であってもよ く、この場合、上下ガイド層の平均厚さ、すなわち(d 1+d2) /2=dを、ガイド層厚と考えれば、図3お よび図4の関係はそのままほぼ同じであり、また、上下 ガイド層の組成の加重平均、すなわち(y1×d1+y 2×d2) / (d1+d2) = yをガイド層 I n組成と して考えれば、図3および図4の関係はそのままほぼ同 じように適用可能である。ただし、実用的には非対称を あまり大きくすると、活性層への光閉じ込めに悪影響を 及ぼすので、ある程度限定される。実用的には、y1と y 2 との差は、-0. 0 5 ≦ y 1 - y 2 ≦ 0. 0 5 を満 たすことが必要であり、特に好ましくは、-0.03≦ y 1 - y 2 ≤ 0. 0 3 を満たす。また、d 1 と d 2 との 比は、実用的には、0.33≦d1/d2≦3を満たす ことが必要であり、特に好ましくは、0.56≦d1/ d 2 ≦ 1.8を満たす。

【0047】さらに、曲線Aで示される条件を満たす種 々の構造の半導体レーザ素子を作製したところ、曲線A に近い条件、例えば、d=0. 1 [μ m] かつ、y=0. 03の場合や、d=0. 07 [μm] かつ、y= 0.045の場合等には、必ずしも完全にFFPのリッ プルが防止されるわけではなく、同一ウェハー内でも、 FFPの0°付近(正面付近)に微妙なリップルが生じ てしまう素子が現われることがある。これは、InGa Nの結晶成長では、相分離すなわち、結晶中の微小な組 成揺らぎが生じてしまいやすく、そのような領域におい て、曲線Aで示される条件を逸脱してしまう場合があ

実験的にこのような問題が生じない境界を求めたところ、 $y \ge 0.003/d+0.002$ を満たす範囲であれば良いことが判明した。この境界を図4に曲線A'として示す。

【0048】良好な光学特性を得るための、ガイド層1 04、107の組成y、膜厚dは、図4の曲線Aを含む 右上の領域、好ましくは、曲線 A'を含む右上の領域に 限定されるが、次のような要請から、ガイド層104、 107の好ましい範囲はさらに制限される。まず、組成 に関して、井戸層にキャリアを良好に閉じ込める必要か 10 5, y 1 ≤ b 1 − 0. 0 8, y 2 ≤ b 1 − 0. 0 8 τ ければならないことが、実験的に判明した。本実施形態 において、b1が約0.17である場合、In組成は約 0.09より小さいことが好ましい。 In組成が0.0 9である場合を図4に直線Bとして示す。直線Bより下 側の領域が所望の範囲である。この範囲を逸脱して、ガ イド層のIn組成が大きくなり、井戸層のIn組成に近 づくと、キャリアの閉じ込めが十分でなくなり、発振動 作が見られなくなるか、閾値が非常に高くなってしまっ た。さらに、好ましくは、y 1 ≦ b 1 - 0. 1、y 2 ≦ 20 b 1-0. 1を満たし (図 4 の直線 B'より下側の領域 である)、これにより、高温でも閾値の上昇が抑制さ れ、50℃で1000時間以上の寿命が確保されるよう になった。またさらには、ガイド層104、107のⅠ n組成を障壁層のIn組成よりも小さくすること、すな わち、y1<b2、y2<b2であることが最も好まし かった。これにより、井戸層へのキャリアの閉じこめが 良好なものとなったと考えられ、この範囲に限定した結 果、70℃で1000時間以上の寿命が確保されるよう になった。この点に関して記載の重複を避けるために、 以降の実施の形態2ないし9での記載は省略するが、上 記と同じ範囲で、好ましい範囲が適用される。

【0049】次に、大きいIn組成のガイド層を厚く形 成すると、半導体レーザ素子の雑音特性および寿命特性 に関して問題が生じることが判明した。これは、結晶成 長により生じた組成揺らぎにより、活性層の組成自体が 変闘されることと、ガイド層自体の組成揺らぎが、活性 屬へのキャリア注入の空間的揺らぎを生じ、そのため、 雑音特性および寿命特性に悪影響を及ぼすものと推測さ れる。これにより、ガイド層104、107の厚みに関 しても、好ましい範囲が限定される。 I n組成が 0.0 1以上の結晶の場合、y ≦ 0. 16 - 0. 6×dの範囲 を満たせば(図4に示される直線Cの左下側の領域)、 良好なInGaN膜の形成が可能であり、戻り光量が 0.001~10%の範囲で、相対雑音強度が-125 d B/Hz以下の低雑音発振動作が可能であり、この範 囲で室温で10000時間以上の寿命が確保されるよう になった。より好ましくは、y≦0.13-0.6×d の範囲を満たせば(図4に示される直線C'の左下側の 領域)、戻り光量が0.001~10%の範囲で、相対 50 18

雑音強度が-130dB/Hz以下の低雑音発振動作が 可能であり、低雑音発振動作が可能で、かつ、40℃で 10000時間以上の寿命が確保されるようになった。 【0050】さらに、ロット歩留まり良く特性の良好な レーザ素子を得る観点からは、ガイド層厚 d は y 1 ≧ O. O 2、y 2 ≥ O. O 2 の結晶に対して、O. 1 2 µ m以下であることが良く、これを超えた場合、In金属 の堆積に起因して結晶成長後のウェハーが黒っぽく見え ることが時々生じ、このようなウェハーから作製された 半導体レーザ素子は特性が非常に悪いものしか得られな いことがあった(必ず生じてしまうものではないが)。 しかし、d ≦ 0. 12の範囲に限定することで、このよ うな問題が防止された。以上、ここで説明した最も好ま しい範囲 (y≥0.003/d+0.002、y1≦b 1-0.1, $y \ge b 1-0.1$, $y \le 1 < b \ge 2$, $y \le 1 < 1$ b 2、d ≤ 0. 1 2、ここで、b 1 = 0. 1 7 および b 2=0.05)を図4に斜線で示す。

【0051】この点に関して記載の重複を避けるために、以降の実施の形態2ないし9では記載は省略するが、上記と同じ範囲で、好ましい範囲が制限されるものである。

【0052】さらに、活性層の組成を調整して、発光波 長を380~430nm (20℃) の範囲としても、上 述の関係式は変わらなかった。

【0053】 [実施の形態2] 図5に本実施形態の半導体レーザ素子500を示す。本実施の形態の半導体レーザ素子500は、実施の形態1における半導体レーザ素子100の活性層105を活性層505に変更した点を除くと半導体レーザ素子100と同じ構成を有する。本実施の形態における半導体レーザ素子500の活性層505の構成は、Inb1Ga1-b1N(b1は約0.17)井戸層(膜厚2nm)、Inb2Ga1-b2N(b2=0.05)障壁層(膜厚4nm)との交互多層構造(障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸層/障壁層/井戸橋性層(発光波長410nm、総膜厚16nm)である。本実施の形態における半導体レーザ素子500の活性層505は、実施形態1の半導体レーザ素子100の活性層105と多層構造の膜厚が異なる。

【0054】本実施の形態の半導体レーザ素子の構成に おいて、FFPを測定したところ、図2に示した実施の 形態1と同様に単峰でリップルがほとんど見られない (3%以下)プロファイルが得られ、良好な放射特性が 得られることが判明した。なお、本実施の形態の半導体 レーザ素子500において、室温における発振閾値は2 5mAであり、110℃においても連続発振動作が確認 できた。

【0055】比較例として、本実施の形態と同じ構造の 半導体レーザ素子500のInGaNからなるガイド層 505として、従来の技術のようにGaNを用いた半導 体レーザ素子を作製したところ、図17のFFP170 2と同様のリップルのあるFFP特性を有した。 【0056】このように、本実施の形態によれば、光学特性の改善された半導体レーザ累子を得ることができた。

【0057】本実施の形態の半導体レーザ素子500の発振モードの等価屈折率neqを上記手法により見積もったところ、neq=2.543であり、GaN層の屈折率nGaN=2.540よりも大きかった。これにより、n-GaN基板101、n-GaN中間層102、p-GaNコンタクト層109等での電界の振動成分が無くなり、よって、良好な放射特性が得られたものと考えられる。

【0058】さらに、本実施の形態の変形例として、活 性層の構成を、Inb1Gal-b1N(b1は約0.17) 井戸層(膜厚2nm)、 $In_{b2}Ga_{1-b2}N$ (b2=0. 05) 障壁層(膜厚4nm) との交互多層構造 (障壁層 /井戸層/・・・/井戸層/障壁層) からなる3重量子 井戸活性層 (発光波長410 n m、総膜厚22 n m) と したところ、図2に示した実施の形態1と同様に単峰 で、リップルがほとんど見られないFFPプロファイル 20 が得られ、良好な放射特性となることが判明した。な お、この半導体レーザ素子において、室温における発振 閾値は40mAであり、100℃においても連続発振動 作が確認できた。この半導体レーザ素子の発振モードの 等価屈折率 neaを上記手法により見積もったところ、n eq=2.545であり、GaN層の屈折率nGaN=2. 540よりも大きかった。これにより、n-GaN基板 101、n-GaN中間層102、p-GaNコンタク ト層109等での電界の振動成分が無くなり、よって、 良好な放射特性が得られたものと考えられる。

【0059】次に、本実施の形態の半導体レーザ素子5 00の構造から、活性層505の構造を、その総膜厚を 種々変更し、各活性層505の膜厚に対して、等価屈折 率nedの値がGaNの屈折率nGaNを超えるときのガイ ド層In組成yを計算し、示したグラフを図6に示す。 図6によれば、活性層505の膜厚が10から50nm の範囲で、等価屈折率 negの値がGaNの屈折率 nGaN を超えるようにするためのガイド層504、507の条 件は実施の形態1の半導体レーザ素子100(活性層膜 厚34nm)で説明したガイド層とほとんど変わらない 40 (すなわち、実施形態1のガイド層104、107の1 n組成は0.035であるのに対し、図6から求められ るガイド層504、507のIn組成は、活性層505 の膜厚が5~60nmの範囲で0.035±0.005 以内である)ことがわかる。厳密には、活性層505の 膜厚が薄いほどIn組成yを大きく設定する必要がある が、活性層膜厚が10nmの場合でも実施の形態1のガ イド層のIn組成0.035に+0.005大きくする 必要があるだけである。また、活性層膜厚が厚いほどⅠ

21

も実施の形態 1 のガイド層の I n 組成 0 . 0 3 5 から I n 組成 1 n 和 1 n

[μm]による補正を加えて、y≥0.003/d+0.002+(0.007-0.22×Wa) とすればよいことが、図6から求められる。

【0060】なお、本実施の形態のように、活性層の両端が障壁層であるとき、(<障壁層/井戸層/・・・/井戸層/障壁層>の構成)、活性層の両端の一方が障壁層であり、他方が井戸層であるとき(<障壁層/井戸層/・・・/障壁層/井戸層>の構成)、活性層の両端が井戸層であるとき、(<井戸層/障壁層/・・・/障壁層/井戸層>の構成)のいずれの場合においても、それら井戸層・障壁層の膜厚を加えあわせたものを活性層膜厚Waとしてよく、いずれの場合においても、本実施の形態に示した関係式は保たれる。

【0061】さらに、活性層の組成を調整して、発光波 長を380~440nm (20℃) の範囲としても、上 述の関係式は変わらなかった。

【0062】 [実施の形態3] 図7に本実施の形態の半 導体レーザ素子700を示す。本実施の形態の半導体レ ーザ素子700は、実施の形態1における半導体レーザ **素子100の上下のクラッド層103、108の組成お** よび活性層105の構成を変更した点を除くと半導体レ ーザ索子100と同じである。本実施の形態における半 導体レーザ案子700の活性層705の構成は、Inhi Ga_{1-b1}N(b1は約0.17) 井戸層(膜厚2n m)、Inb2Ga1-b2N(b2=0.05)障壁層(膜 厚4nm)との交互多層構造(障壁層/井戸層/・・・ /井戸層/障壁層)からなる3重量子井戸活性層(発光 波長410nm、層膜厚22nm)である。本実施の形 態における半導体レーザ素子700のそれぞれのクラッ ド層の構成は、 $n-Al_{x1}Ga_{1-x1}N$ (x1=0.13) 下部クラッド層703(膜厚0.8μm)、pーA $l_{x2}Ga_{1-x2}N$ (x 2 = 0. 13) 上部クラッド層 7 0 8 (膜厚 0.5 μm) である。

膜厚が薄いほどI n組成 y を大きく設定する必要がある 【0063】本実施の形態の半導体レーザ素子 700のが、活性層膜厚が 10 n m の場合でも実施の形態 1 の ガ 構成において、FFPを測定したところ、図2に示したイド層の I n組成 0.035に+0.005大きくする 実施の形態 1 の半導体レーザ素子 100と同様に単峰で必要があるだけである。また、活性層膜厚が厚いほど I リップルがほとんど見られない (3%以下) プロファイ n組成が小さくてもよいが、活性層膜厚 50 n m 場合で 50 ルが得られ、良好な放射特性が得られることが判明し

た。なお、本実施の形態の半導体レーザ素子700において、室温における発振閾値は25mAであり、110 $\mathbb C$ においても連続発振動作が確認できた。

【0064】比較例として、本実施の形態と同じ構造の 半導体レーザ素子のInGaNからなるガイド層10 4、107として、従来の技術のようにGaNを用いる と、本実施の形態と同じ構造の半導体レーザ素子を作製 したところ、図17のFFP1702と同様の、リップ ルのあるFFP特性であった。このように、本実施の形 態によれば、光学特性の改善された半導体レーザ素子7 00を得ることができた。

【0065】本実施の形態の半導体レーザ素子700の 発振モードの等価屈折率 n_{eq} を上記手法により見積もったところ、 n_{eq} =2.548であり、GaN層の屈折率 n_{GaN} =2.540よりも大きかった。これにより、n-GaN基板701、n-GaN中間層702、p-GaN3 ルコンタクト層709等での電界の振動成分が無くなり、よって、良好な放射特性が得られたものと考えられる。

【0066】さらに、本実施の形態における上下のクラ 20 ッド層703、708の構成を、それぞれ、n-Alxl Ga_{1-x1}N (x 1 = 0. 07) 下部クラッド層703 (膜厚 0. 8 μ m)、 p - A l x2G a 1-x2N (x 2 = 0.07) 上部クラッド層708 (膜厚0.5μm) と したところ、図2に示した実施の形態1の半導体レーザ 素子100と同様に単峰で、リップルがほとんど見られ ない (5%以下) FFPプロファイルが得られ、良好な 放射特性となることが判明した。なお、この半導体レー ザ素子において、室温における発振閾値は70mAであ った。この半導体レーザ素子700の発振モードの等価 30 屈折率を上記手法により見積もったところ、 $n_{eq}=2$. 542でありGaN層の屈折率nGaN=2.540より も大きかった。これにより、n-GaN基板101、n -GaN中間層102、p-GaNコンタクト層109 等での電界の振動成分が無くなり、よって、良好な放射 特性が得られたものと考えられる。

【0067】次に、本実施の形態の半導体レーザ素子700の構造から、上下のクラッド層の構成を、その組成を種々変更して、上下のクラッド層703、708のA1組成に対して、等価屈折率neqの値がGaNの屈折率40nGaNを超えるときのガイド層In組成yを計算した結果を図8のグラフに示す。ただし、説明を簡略化する目的でx1=x2とした。図8によれば、クラッド層のA1組成が0.055から0.145の範囲で、等価屈折率neqの値がGaNの屈折率nGaNを超えるようにするためのガイド層704、707の条件はクラッド層103、108のA1組成が0.1の場合(実施の形態1ならびに2の場合)とほとんど変わらない(すなわち、実施形態1においてガイド層104、107のIn組成は0.035であるのに対し、ガイド層704、707の50

22

I n組成は0.035±0.005以内) ことがわか る。詳細には、クラッド層のAl組成が大きいほどIn 組成yを大きく設定する必要があるが、クラッド層のA 1組成0.145の場合でも実施の形態1に示した条件 (ガイド層の I n組成 0. 035) に I n組成を+0. 005大きくする必要があるだけであり、また、クラッ ド層のA1組成が小さいほどIn組成が小さくてもよい が、クラッド層のAl組成0.055の場合でも実施の 形態1に示した条件からIn組成が0.005程度小さ くてもよいだけであり、実用上組成をこのレベルまで厳 密にコントロールすることも難しいため、実施の形態1 に示した条件をクラッド層組成0.055から0.14 5の範囲で適用してもよい。なお、図8では、上下のク ラッド層の組成を同じものとしたが、本発明の適用範囲 はこの場合に限られるものではなく、図8を参照すれば 明らかなように、クラッド層のA1組成が0.055か ら0.145の範囲で結果はほとんど変わらないもので あるから、上下のクラッド層703、707の組成をこ の範囲内で任意に変更しても良い。

【0068】また、より厳密には、クラッド層のA1組成xが、0.05 $\leq x \leq 0$.2のとき、図4の曲線Aで示される条件にクラッド層のA1組成xによる補正を加えて、 $y \geq 0$.003/d-0.003+(-0.010+0.10 $\times x$)とすればよいことが、図8から求められる。また、実施の形態1に記述したのと同じ理由により、好ましい範囲が、図4の曲線A、で示される条件にクラッド層のA1組成xによる補正を加えて、 $y \geq 0$.003/d+0.002+(-0.010+0.10 $\times x$)とすればよいことが、図8から求められる。これらの式において、上下のクラッド層のA1組成が異なる場合には、その単純平均値(x1+x2)/2exとして考えれば良い。

【0069】さらに、A1GaNクラッド層の構成を組成の異なるいくつかの薄層A1GaNの交互積層からなるような、いわゆる超格子クラッド層とした場合、交互積層膜を構成する薄層の周期が30nm以下程度であれば、モードには影響しないので、その交互積層膜の平均組成を上記クラッド層の組成比×1、×2としてよもよく、上記の関係式はそのまま適用できる。

【0070】さらに、クラッド層の厚みを変える検討を行ったところ、下部クラッド層703に関して、膜厚 0.6μ m以上であれば、上述の条件を変更する必要はなかった。また、上部クラッド層708に関して、膜厚 0.3μ m以上であれば、上述の条件を変更する必要はなかった。

【0071】さらに、活性層705の組成を調整して、 発光波長を380~440nm (20℃) の範囲として も、上述の関係式は変わらなかった。

【0072】 [実施の形態4] 本半導体レーザ素子は、 実施の形態1の半導体レーザ素子100の変形例であ (13)

り、図9に概略図を示す。本実施の形態の半導体レーザ 素子900の各層の膜厚・組成を次のものとしたもので ある。n-GaN基板901 (膜厚70μm) の上にn -GaN第1中間層902 (膜厚4μm)、n-Inc Ga_{1-c}N (c=0.07) 第2中間層912 (膜厚 0. $0.5 \mu m$), $n-A l_{x1}G a_{1-x1}N (x 1=0.$ 1) 下部クラッド層903 (膜厚0. 7μm)、n-I n_{y1}Ga_{1-y1}N (y1=0.035) 下部ガイド層90 4(膜厚 $0.1\mu m$)、 $In_{bl}Ga_{l-bl}N$ (b1は約 0. 17) 井戸層(膜厚2nm)、In_{b2}Ga_{1-b2}N (b2=0.05)障壁層(膜厚4nm)との交互多層 構造(障壁層/井戸層/・・・/井戸層/障壁層)から なる5重量子井戸活性層905(発光波長410nm、 総膜厚34nm)、p-AlzGa_{1-z}N(z=0.2) 下部キャップ層 9 0 6 (膜厚 1 8 n m) 、 p - I n v2G a_{1-y2}N (y 2 = 0.035) 上部ガイド層 9 0 7 (膜 厚0. $1 \mu m$)、 $p-A l_{z1}G a_{1-z1}N$ (z 1=0. 2) 上部キャップ層 9 1 3 (膜厚 5 n m) 、 p - A l x2 Ga_{1-x2}N(x 2 = 0. 1)上部クラッド層 9 0 8(膜 厚0. 5 μm) 、p-GaNコンタクト層909 (膜厚 O. 1 μm) が順次積層形成されている。本実施の形態 においては、下部クラッド層903の下にn-IncG a_{1-c}N第2中間層912が介装されており、これは、 積層構造中にクラックが導入されることを防止するため の役割も果たしている。さらに、本実施の形態において は、上部ガイド層の上にp-Al₂₁Ga₁₋₂₁N(21= 0. 2) 上部キャップ層 9 1 3 が介装されており、これ は、レーザ構造の積層形成中に、Inを含んで構成され るガイド層907の蒸発による劣化を防止するために設 けたものである。

【0073】本実施の形態の半導体レーザ素子900の構成において、FFPを測定したところ、図2のように単峰のプロファイルが得られ、リップルはほとんど見られず(10%以下)、良好な放射特性が得られることが判明した。なお、室温における発振閾値は55mAであり、80℃においても連続発振動作が確認できた。

【0074】比較例として、本実施の形態と同じ構造の 半導体レーザ素子900のInGaPからなるガイド層 904、907に従来の技術のようにGaNを用いて半 導体レーザ素子を作製したところ、図17のFFP17 40 02と同様にリップルのあるFFP特性を有した。した がって、本実施の形態によれば、光学特性の優れた半導 体レーザ素子900を得ることができる。

【0075】本実施の形態の半導体レーザ素子900の発振モードの等価屈折率neqを上記方法により見積もったところ、neq=2.547であり、このように、n-IncGal-cN第2中間層912をクラッド層の外部に介装しない実施の形態1の半導体レーザ素子100の場合と同じであった。これは、導波モードは、上下クラッド層903、908よりも内側の構造によりほぼ決定さ 50

24

れているので、等価屈折率neqの値にはほとんど影響し ないためであり、実施の形態1ないし3に示した等価屈 折率 negの値がGaNの屈折率を超える条件は本実施の 形態のようにクラックを防止するための層(InGaN で構成され膜厚 0. 1 μ m以下)を導入しても変わらな かった。さらに、等価屈折率 n eqが p - A l z1G a 1-z1 N (z1=0.2)上部キャップ層913を上部ガイド 層907と上部クラッド層908との間に介装しない実 施の形態1の場合と同じであったのは、 $p-Al_{z1}Ga$ 10 1-z1N (z 1 = 0.2) 上部キャップ層 9 1 3 が 2 0 n m以下と薄いために、等価屈折率 n eqの値にはほとんど 影響しないためであり、実施の形態1ないし3に示した 等価屈折率 n eqの値がG a Nの屈折率 n GaNを超える条 件は本実施の形態のようにクラックを防止するための層 (InGaNで構成され膜厚0.1 µm以下)を導入し ても変わらなかった。

【0076】〔実施の形態5〕図10に半導体レーザ素 子1000を示す。半導体レーザ素子1000は、図9 に概略図を示す半導体レーザ素子の各層の膜厚・組成を 20 次のものとしたものである。 n-GaN基板1001 (膜厚30~300μm)。n-GaN第1中間層10 02 (膜厚0~30μm)、n-In_cGa_{1-c}N (0. 01≦c≦0.2)第2中間層1012 (膜厚0~0. $1 \mu m$), $n - A l_{x1}G a_{1-x1}N$ (0. $0.5 \le x.1 \le x.1$ 0. 2) 下部クラッド層1003 (膜厚0. 6~10μ m)、n-In_{v1}Ga_{1-v1}N (y 1 ≦ b 1) 下部ガイド 層1004(膜厚d1 [μm])、In_{b1}Ga_{1-b1}N井 戸層、Inb2Ga1-b2N(b2<b1)障壁層との交互 多層構造からなる量子井戸活性層1005(発光波長3 70~440nm、総膜厚Wa [μm])、AlzlGa 1-z1N(0≦ z 1≦0. 3)下部キャップ層1006 (膜厚0~50nm)、p−In_{v2}Ga_{1-v2}N(y 2≦ b 1) 上部ガイド層 1 0 0 7 (膜厚 d 2 [μ m])、 p $-Al_{21}Ga_{1-21}N$ (0 \leq z 1 \leq 0.3) 上部キャップ 層1013(膜厚0~50nm)、p-Alx2Ga_{I-x2} N(0.05≦x2≦0.2)上部クラッド層1008 (膜厚0. 4~10μm)、p-GaNコンタクト層1 009 (膜厚 $0\sim10\mu m$)。ただし、d=(d1+d)2) /2, $y = (y 1 \times d 1 + y 2 \times d 2) / (d 1 + y 2 \times d 2)$ d 2), x = (x 1 + x 2) / 2, $5 \le Wa \le 60$, y $\geq 0.003/d-0.003+(0.007-0.2$ 2×Wa) + (-0.010+0.10×x)の関係式 を満たす。

【0077】本実施の形態の半導体レーザ素子の構成に おいて、FFPを測定したところ、図2のように単峰の プロファイルが得られ、リップルはほとんど見られず、 良好な放射特性が得られることが判明した。

【0078】さらに、ガイド層の組成、膜厚の範囲を、 y≥0.003/d+0.002+(0.007-0. 22×Wa)+(-0.010+0.10×x)の関係 式を満たすように限定したところ、実施の形態1に記載したのと同じ理由により、ウェハー内にFFPの正面付近のリップルが生じてしまう素子が現われることが防止され、望ましい。

【0079】 [実施の形態6] 本半導体レーザ素子11 00は、実施の形態4の半導体レーザ素子900の変形 例であり、n-GaN基板901(膜厚70μm)をサ ファイア基板1101 (膜厚60μm) とし、電極11 11をn-GaN中間層1102に接続する構成とした 点を除くと、半導体レーザ素子900と同じである。 【0080】本実施の形態の半導体レーザ素子1100 の構成において、FFPを測定したところ、通常は、図。 2のように単峰のプロファイルが得られ、リップルは見 られず、良好な放射特性が得られることが判明した。た だし、素子によっては、リップルが20%程度の強度見 られることがあった。これは、導波路の近傍にサファイ ア/GaNの様に、屈折率の大きく異なる界面が存在し ているために、そこで反射が起こり、n-GaN層の膜 厚のバラツキにより、反射面の導波路との結合条件が微 妙に変動し、最悪のケースでは、若干のリップルが発生 20 してしまうためである。しかしながら、ガイド層の条件 を実施の形態1ないし3に示した条件に設定すること で、そうでない場合、例えば従来の技術のようにガイド 層をGaNで構成した場合と比較すると、格段に光学的 特性は向上しており、平均的にはほとんどリップルの無 いFFP特性が得られるものであり、本実施の形態の様 に、サファイア基板を用いた場合においても、本発明の 効果が確認できた。サファイア基板の適用は、同様に、 実施の形態1、2、3、5の半導体レーザ素子に対して も可能であり、同様の効果が確認できた。

【0081】 [実施の形態7] 半導体レーザ素子1200を図12に示す。半導体レーザ素子1200は、実施の形態1の半導体レーザ素子100の活性層105を、GaN1-e1Pel(e1は約0.03) 井戸層(膜厚2nm)とGaN1-e2Pe2(e2は約0.01) 障壁層(膜厚4nm)との交互多層構造からなる3重量子井戸活性に層1205(発光波長400nm、総膜厚16nm)とした点を除くと、実施の形態1と同様の構成である。本実施の形態においても、実施の形態1と同様に光学的特性に優れた半導体レーザ素子1200が得られた。また、活性層1205の組成を若干変更させたところ、発光波長360~550nmの範囲で、同様の効果が得られた。

26

【0084】本実施の形態においても、実施の形態1と同様に光学的特性に優れたの半導体レーザ素子が得られた。

【0085】以上の実施の形態の中では、上下のガイド層をInGaNとして説明してきたが、本発明の適用はこれに限られるものではなく、GaNに添加するとその屈折率の大きくなるようなIn以外の他の元素、例えば、As、P、Tl等を添加した材料を添加した材料であってもよい。すなわち、ガイド層を、GaNAs、InGaNP、GaNPAs、InGaNAS、InGaNP、InGaNPAs、TlGaN、TlInGaN等としてもよい。特に、GaNAsの場合、これまでの実施の形態の中で説明してきたIn組成の6分の1をAs組成とすることで、変換された組成の範囲で、同様の効果が得られる。特に、GaNPの場合、これまでの対してきたIn組成の4分の1をP組成とすることで、変換された組成の範囲で、同様の効果が得られる。

【0086】さらに、本発明の半導体レーザ素子は、さまざまな実施形態の組み合わせも含み得ることは当業者には明らかである。

【0087】 [実施の形態10] 図15は、本実施の形態の光学式情報再生装置1500を示す。基台21、基台21上に設置された実施の形態1の半導体レーザ素子100、コリメータレンズ23、ビームスプリッタ24、対物レンズ25、光ディスク26、反射光を集光するためのレンズ27、集光された光を検出する光検出器28とからなっている。この光学式情報再生装置1500において、半導体レーザ素子100から出射したレーザ光は、コリメータレンズ23で平行光もしくは平行に近い光に変換され、ビームスプリッタ24を透過した、対物レンズ25により光ディスク26の情報記録面には、凹凸もしくは磁気変調もしくは屈折率変調によりビット情報が高されている。サギュれている。サギュれてレーザ光はそこで反射さ

れ、対物レンズ25を通してビームスプリッタ24によ って分岐され、反射光を集光するためのレンズ27によ って光検出器28に集光され、光学的に検出された信号 を電気的信号に変換して記録情報の読み取りが行われ

【0088】本実施の形態の光学式情報再生装置150 Oにおいては、FFPのリップルの抑制された光学的特 性の良好な半導体レーザ素子100を用いたので、対物 レンズ25により光ディスク26の情報記録面に高解像 に集光され、その結果、5M/mm²もの高密度で記録 された光ディスクから、ビット誤り率10-6で、書き込 まれた情報を読み出すことができた。

【0089】一方、比較例として、半導体レーザ素子1 00のガイド層に従来の半導体レーザ素子1600のよ うにGaNを用いた半導体レーザ素子を図15における 半導体レーザ素子100に変えて用いたところ、同様の 条件のもとで、ビット誤り率10-3であり、実用に適さ なかった。このように高密度に記録された光ディスクか ら、低誤り率で情報を読み出せたことにより、本実施の 形態の光学式情報再生装置1500によれば、光ディス 20 ク上への高解像の集光が可能となったことが確認され

【0090】さらに、本実施の形態の光学式情報再生装 置における半導体レーザ素子100を実施の形態2~9 の半導体レーザ素子に置換したところ、いずれの場合に おいても、上述の条件で、ビット誤り率10-5~10-7 が達成され、光ディスク上への高解像の集光が可能とな ったことが確認された。

[0091]

【発明の効果】本発明によれば、窒化ガリウム系半導体 30 を用いた半導体レーザ素子において、ガイド層の構成を 所定のものとすることにより、単峰でリップルの抑制さ れたファーフィールドパターンを実現でき、光学的特性 の優れた半導体レーザ素子を提供できる。本発明によれ ば、光学式情報再生装置において、このような半導体レ 一ザ索子を用いることにより、高解像で集光できるよう になり、高密度に記録された光ディスクの読み取りが可 能になる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1の実施形態の半導体レーザ素子を 40 708 p-Al_{x2}Ga_{1-x2}N上部クラッド層 示す図である。

【図2】本発明の半導体レーザ素子のFFP特性を示す 図である。

【図3】ガイド層In組成と等価屈折率の関係を示す図 である。

【図4】本発明の半導体レーザ素子のガイド層条件を示 す図である。

【図5】本発明の第2の実施形態の半導体レーザ素子を 示す図である。

【図6】活性層層厚を変化させたときのガイド層条件を 50 層

示す図である。

【図7】本発明の第3の実施形態の半導体レーザ素子を 示す図である。

【図8】クラッド層Al組成を変化させたときのガイド 層条件を示す図である。

【図9】本発明の第4の実施形態の半導体レーザ素子を 示す図である。

【図10】本発明の第5の実施形態の半導体レーザ素子 を示す図である。

【図11】本発明の第6の実施形態の半導体レーザ素子 を示す図である。

【図12】本発明の第7の実施形態の半導体レーザ素子 を示す図である。

【図13】本発明の第8の実施形態の半導体レーザ素子 を示す図である。

【図14】本発明の第9の実施の形態の半導体レーザ素 子を示す図である。

【図15】本発明の光学式情報再生装置を示す図であ

【図16】従来技術の半導体レーザ素子を示す図であ

【図17】従来技術の半導体レーザ素子のFFP特性を 示す図である。

【符号の説明】

101 n-GaN基板

102 n-GaN中間層

103 n-Al_{x1}Ga_{1-x1}N下部クラッド層

104 n-In_{v1}Ga_{1-v1}N下部ガイド層

105 量子井戸活性層

106 AlxGal-zNキャップ層

107 p-In_{v2}Ga_{1-v2}N上部ガイド層

108 p-Al_{x2}Ga_{1-x2}N上部クラッド層

109 p-GaNコンタクト層

110,111 電極

504 n-In_{v1}Ga_{1-v1}N下部ガイド層

505

507 p-In_{v2}Ga_{1-v2}N上部ガイド層

703 $n-A \cdot 1_{x1}G \cdot a_{1-x1}N$ 下部クラッド層

705 量子井戸活性層

901、1001 n-GaN基板

902,1002 n-GaN中間層

903, 1003 n-Al_{x1}Ga_{1-x1}N下部クラッ ド層

904,1004

n-In_{v1}Ga_{1-v1}N下部ガイド

905,1005 量子井戸活性層

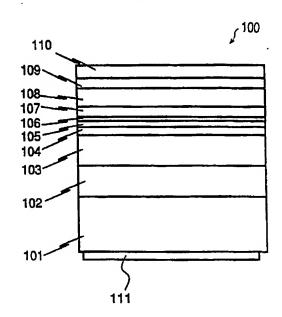
906, 1006 p-AlzGa1-zNキャップ層

907,1007 p-In_{v2}Ga_{1-v2}N上部ガイド

(16)

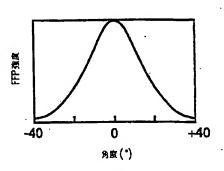
29 p - A l x2G a l-x2N上部クラッ サファイア基板 1101 908,1008 1102 n-GaN中間層 ド層 電極 1 1 1 1 p-GaNコンタクト層 909,1009 1 2 0 5 量子井戸活性層 910, 911, 1010, 1011 量子井戸活性層 1 3 0 5 n-InCGal-cN中間層 912 1 4 0 5 量子井戸活性層 913 p-Al_{z1}Ga_{1-z1}Nキャップ層

【図1】

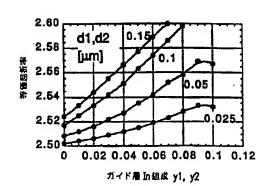


[図2]

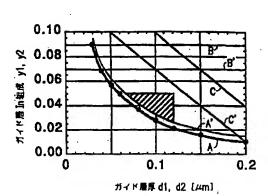
30

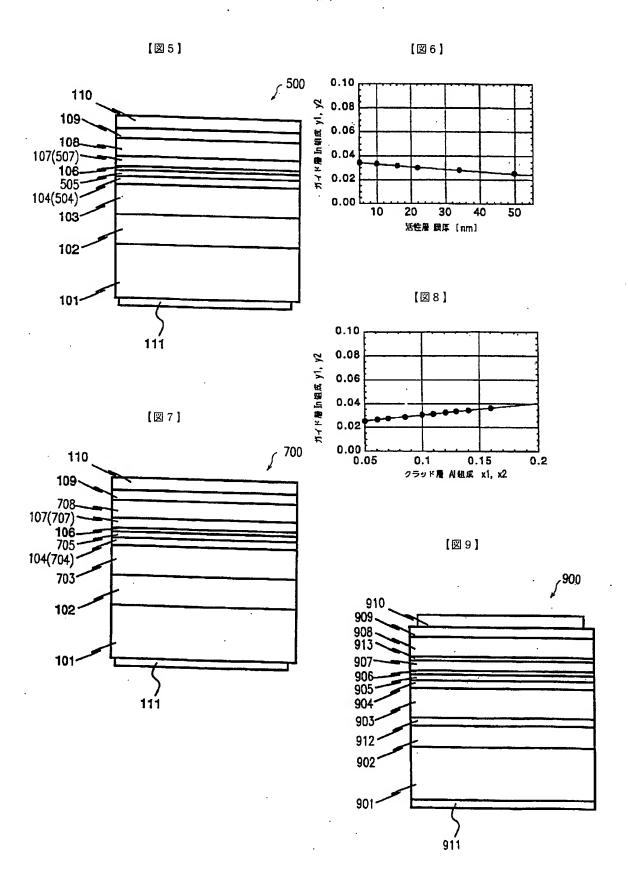


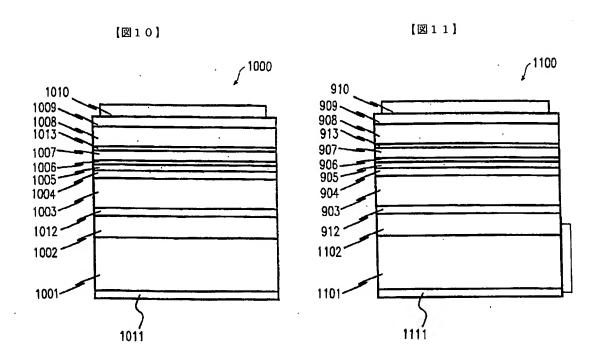
[図3]

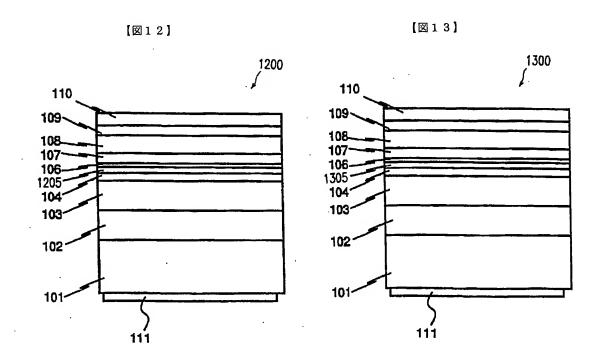


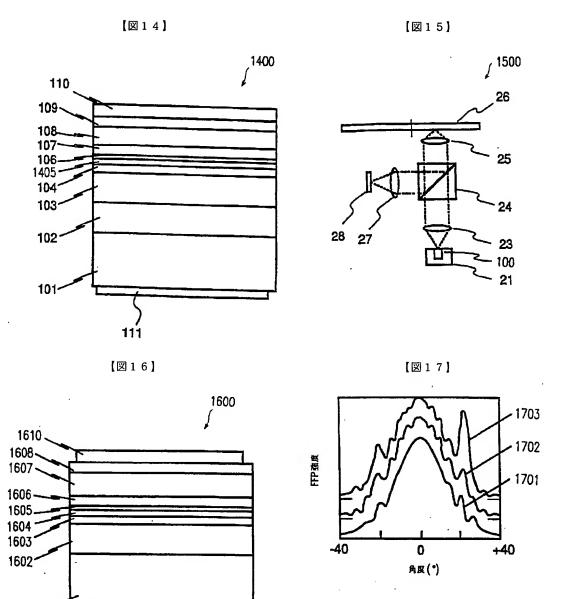
[図4]











1601

1609